



7月上旬に北海道で開催されたホクレンディスタンスに、加藤風磨選手、大畑和真選手の2名が出場しました。絶好のコンディションで行われた千歳大会5000mでは2名共自己ベストを更新することができました。チームはその勢いそのまま夏の走り込みへ突入り、各々上期の課題を克服すべく日々鍛錬を行いました。また、コロナ禍で自粛されていた合同合宿も再開され、九州実業団合宿には江口大雅選手と鈴木雄太選手が、全日本実業団合宿には加藤風磨選手が参加しました。他チームの主力選手と練習、生活を行ったことで、競技への取組みを見直し、これからの競技結果につなげていってほしいと思います。

今後は駅伝に向けた動きとなりますが、チームは若手中心になるため、臆することなく果敢にチャレンジするレースを目指したいと思います。

引き続きご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

選手コメント

加藤風磨

上期最後のレースとなったホクレンディスタンスでは、5000mの自己記録を更新でき、良い流れのまま夏合宿に入ることができました。部内合宿ではスタミナ強化に向けて距離を踏むことを意識して練習に取り組みました。また、個人では初めて全日本の合宿に参加し、普段以上の練習の質、緊張感を体感することができ、この夏は体方面、メンタル面が共に向上したと感じています。

駅伝では大きな役目でもある「流れを変えられる選手」になれるように、大会に向けて更に精進していきたいと思います。



ホクレンディスタンス(千歳)
加藤風磨選手(右)、大畑和真選手(左)

夏合宿の様子

